

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
写真基礎座学		フォトファイン学科	2024/前期	講義・実習
授業時間	回数	単位数	必須・選択	担当教員
150分	13回	2単位	必須	重村 和宏
授業の概要				
<p>写真を始めるにあたり必要となる基礎を一から学習します。 ジャンルを問わず全ての写真撮影の根幹となる基礎知識・基礎技術を理解し、日々の撮影に活かしてもらうことを目指します。座学ではありませんが実習も重ねて行います。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>カメラ・撮影機材（主に三脚・クリップオンストロボなど）の知識・技術を取得しそれらを使って基本的な撮影撮影ができる。</p>				
教員の略歴				
<p>大阪府内で営業写真館を経営。家族写真や前撮り写真、スクール関係の撮影も行う。 また、営業写真館の枠組みに拘らず、建築撮影や広告写真撮影まで幅広く撮影を行なっている。</p>				
回	テーマ	内容		
1	基礎座学概論	機材の名称・使い方		
2	機材の構造	カメラ・レンズの仕組み・露出の仕組み		
3	露出の3要素	絞り・シャッタースピード・ISOについて		
4	カラー管理・ホワイトバランスについて	AdobeRGB・sRGB ホワイトバランスの設定		
5	写真データについて	デジタルデータの使い方・管理について		
6	撮影実習	基本的な撮影機材を用いての撮影実習		
7	撮影データにおける権利	著作権・肖像権の概要		
8	クリップオンストロボの概要	クリップオンストロボの仕組みと原理		
9	クリップオンストロボ撮影実習(屋内)	直光・バウンスの違い		
10	クリップオンストロボ撮影実習(屋外)	オフカメラ・多灯ライティング		
11	実習課題合評	課題合評		
12	期末試験	筆記試験		
13	試験回答/通期課題合評	通期課題・・スクールライフスナップ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		出席率 授業態度 課題 試験	10.0% 10.0% 30.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
写真科学		フォトファイン学科	2024/通年	講義
授業時間	回数	単位数	必須・選択	担当教員
150分	10回	1単位	必須	山口 晴久
授業の概要				
単写真から群写真まで構成・タイトリング・プレゼンテーションまで制作を通して学ぶことで自身が表現したい事を見つけていきます。最終課題として写真集の作成を目指します。				
授業終了時の到達目標				
自身の撮影した複数枚の写真を用いて組写真構成・群写真構成を行い、自身の制作目的（コンセプト）を第三者に伝えることができる。				
教員の略歴				
高校写真部の顧問として写真甲子園などの全国大会に何度も出場・優勝に導く。 高校生として初めて写真新世紀2名同時入賞を指導、審査員として関西御苗場レビュアー、香川県・福井県・奈良県・和歌山県の高校総文の審査員を務める。そして写真作家としてパリ・ニューヨークをはじめ多くの個展や写真集出版など精力的に活動している。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	制作における考え方・進め方		
2	感情の可視化	果物を用いて喜怒哀楽を表現		
3	プレゼンテーション・合評	自身の作品を用いてのプレゼンテーション		
4	組写真の構成	他者の写真を用いて組写真を構成		
5	前期最終合評	2・3・4枚組の組写真提出と合評		
6	過去作品から考察する作品コンセプト	著名な作家の作品から考察する作品コンセプト		
7	写真集作成の基礎	写真集を作成する際の基本構成について学ぶ		
8	最終課題写真集制作1	20枚の群写真を作成する		
9	最終課題写真集制作2	48ページ以上の写真集の作成		
10	最終課題合評	合評		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率 授業態度 課題	20.0% 20.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スタジオワーク I・II		フォトファイン学科	2024/通年	実習
授業時間	回数	単位数	必須・選択	担当教員
150分	20回	3単位	必須	土屋 宏樹
授業の概要				
大型ストロボなどを用いて、人物・商品の撮影を行う				
授業終了時の到達目標				
大型ストロボを使って人物・商品のライティングができ、自身の表現したいセットが組める。				
教員の略歴				実務経験 有
都内レンタルスタジオにてスタジオマンとして数年勤務後、ファッションフォトグラファー福原佑二に師事しその後独立。現在もポートレートを中心に様々な被写体に対してスタジオ撮影並びにロケ撮影とジャンル問わず撮影を行なっている。				
回	テーマ	内容		
1	撮影機材ガイダンス	機材・スタジオ機材の扱い方		
2	人物ライティング	基礎人物ライティング実習		
3	大型ストロボ実習	大型照明機材を用いての撮影実習		
4	光質の違い	ストロボアクセサリーを用いての光の違い		
5	ライティング実習1	提示した写真を考察し同じ光を作る		
6	ライティング実習2	同上		
7	商品撮影1	商品撮影における考え方・注意点		
8	商品撮影2	前回の内容を踏まえて実習		
9	前期課題撮影	課題制作		
10	前期課題合評	課題合評		
11	撮影課題	同系色の被写体に対してのアプローチ		
12	多灯ライティングの考え方	人物撮影における多灯の考え方		
13	バック飛ばし	バック飛ばしのライティング各種		
14	商品切り抜きライティング	商品切り抜きライティングの各種		
15	広告写真作成1	各自選択した被写体に対して撮影		
16	広告写真作成2	同上		
17	ファッション撮影1	各自テーマを考え撮影		
18	ファッション撮影2	同上		
19	後期撮影課題	課題制作		
20	後期課題合評	課題合評		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		出席率 授業態度 課題	10.0% 40.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
デジタルフォトⅠ・Ⅱ		フォトファイン学科	2024/通年	講義
授業時間	回数	単位数	必須・選択	担当教員
150分	20回	3単位	必須	土屋 宏樹
授業の概要				
<p>商業的観点・作品的観点から見て現代写真においてデジタル写真の普及率は高確率な割合を使用されており、編集技術は必要不可欠なスキルになっている。自身のイメージを第三者により明確に伝えられる様、スキルの取得を目指す。またテザー撮影やプリント業務などPCを用いて作業を行うスキルも取得することを目指します。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>Adobe Photoshop・Adobe bridge・Adobe Lightroomなどの写真編集ソフトを使って写真修正・デザインなどができる。</p>				
教員の略歴			実務経験 有	
<p>都内レンタルスタジオにてスタジオマンとして数年勤務後、ファッションフォトグラファー福原佑二に師事しその後独立。現在もポートレートを中心に様々な被写体に対してスタジオ撮影並びにロケ撮影とジャンル問わず撮影を行なっている。</p>				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	PC・各種アプリケーションの説明、取り扱い		
2	写真現像1	Adobe bridgeを用いてのセレクト・現像		
3	写真現像2	Adobe bridgeを用いてのセレクト・現像・応用		
4	写真編集1	Adobe Photoshopを用いての写真編集1		
5	写真編集2	Adobe Photoshopを用いての写真編集2		
6	ツールの使用方法	各種ツールの説明、その注意点		
7	調整レイヤー	各種調整レイヤーを用いての写真編集		
8	Adobe Lightroomの効果	Adobe Lightroomによる写真管理及び調整		
9	テザー撮影	各種アプリケーションを用いてのテザー撮影		
10	期末実技試験	期末試験		
11	課題制作1	名刺作成課題1		
12	課題制作2	名刺作成課題2		
13	人物写真レタッチ1	肌・髪の毛修正		
14	人物写真レタッチ2	服修正・マスクの作成		
15	モノクロ編集	Adobe Photoshop等を用いてのモノクロ編集		
16	合成	商品切り抜き写真を用いての合成		
17	課題制作1	後期最終課題制作1		
18	課題制作2	後期最終課題制作2		
19	課題制作3	後期最終課題制作3		
20	最終課題合評	合評		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		出席率 授業態度 課題 試験	20.0% 20.0% 30.0% 30.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
ライフワーク		フォトファイン学科	2024／通年	講義
授業時間	回数	単位数	必須・選択	担当教員
150分	13回	2単位	必須	福島 耕平
授業の概要				
複数枚の写真を用い現代アートとして個人が発信する意味、また社会に向けたメッセージの重要性を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
日常を送る中で身近な事に目を向けそれらを作品のテーマとし制作する過程を学び、視覚・言語化したものを用いて作品昇華する事を獲得することを目標とする。				
教員の略歴				実務経験 有
大阪を拠点に写真作家とし活動。その傍、若年層を中心とした作家を集めたAtelier Ricken Backer設立、代表兼directorを務める。				
回	テーマ	内容		
1	課題合評	各自の今後のテーマとなる課題を見つける		
2	作品制作における考え方	過去の作品集よりどの様な形で構成されているのか考える		
3	セレクト・構成	組写真を制作しセレクト・構成を考える		
4	制作実習1	上記の内容を踏まえての制作実習		
5	制作実習2	上記の内容を踏まえての制作実習		
6	制作課題合評	合評		
7	写真作品におけるリサーチ・発想力の重要性	過去作品からの見解・考察		
8	最終作品課題制作1	作品制作実習1		
9	最終作品課題制作2	作品制作実習2		
10	中間発表	中間発表		
11	各自作品に合わせた最終アプローチ1	作品編集・プリント作業1		
12	各自作品に合わせた最終アプローチ2	作品編集・プリント作業2		
13	最終合評	合評		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		出席率 授業態度 課題	10.0% 10.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
フォトアート		フォトファイン学科	2024/後期	講義
授業時間	回数	単位数	必須・選択	担当教員
150分	13回	2単位	必須	土屋・田中・福島・重村
授業の概要				
卒業制作に向けて制作スケジュールを設定する。その後、テーマの発掘からプレゼンテーションの方法論と写真、芸術、メディアアート、現代美術等様々な制作背景、時代性、文化を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
テーマ、コンセプト、写真のセレクト、構成、プリント、額装、展示方法、プレゼンテーションと、作品作りの一連の流れを自身で行う事ができる。				
教員の略歴				実務経験 有
土屋宏樹：都内レンタルスタジオにてスタジオマンとして数年勤務後、ファッションフォトグラファー福原佑二に師事しその後独立。現在もポートレートを中心に様々な被写体に対してスタジオ撮影並びにロケ撮影とジャンル問わず撮影を行なっている。				
田中一泉：写真業界とファッション業界での経験を元に作品を制作。2020 「箱に終う。」 solo exhibition in bouclettes (大阪) 2021 √Plant First Exhibition in 高瀬川・四季 Air (京都) 2022 √Plant Second Exhibition in Fuji Film Imaging Plaza 出展 (大阪) 2023 BEYOND THE AGES / PORTRAIT Sansiao Gallery (東京) 2025 Roots Bloom Gallery (大阪)				
福島耕平：大阪を拠点に写真作家とし活動。その傍、若年層を中心とした作家を集めたAtelier Ricken Backer設立、代表兼directorを務める。				
重村和宏：大阪府内で営業写真館を運営。家族写真や前撮り写真、スクール関係の撮影も行う。また、営業写真館の枠組みに拘らず、建築撮影や広告写真撮影まで幅広く撮影を行なっている。				
	テーマ	内 容		
1	ガイダンス	卒業制作におけるガイダンス・スケジュール		
2	テーマ選定	過去作品より自身の課題制作の選定		
3	個人課題制作1	課題制作1		
4	個人課題制作2	課題制作2		
5	個人課題制作3	課題制作3		
6	個人課題制作4	課題制作4		
7	中間発表	課題制作中間発表		
8	個人課題制作5	課題制作5		
9	額装の選定	個人制作における展示額装の選定		
10	プリント用紙の選定	個人制作における写真用紙の選定		
11	プリント・額装・展示作業1	展示に向けた最終アプローチ1		
12	プリント・額装・展示作業2	展示に向けた最終アプローチ2		
13	卒業制作合評	合評		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		出席率 授業態度 課題・レポート	10.0% 10.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
写真作品講座Ⅰ・Ⅱ		フォトファイン学科	2024/通年	実習
授業時間	回数	単位数	必須・選択	担当教員
150分	8回	1単位	必須	桑島 秀樹
授業の概要				
精緻なフレーミングによって導き出せる撮影技術の獲得、またそれらによって獲得した技術を用い自身の作品制作に対しアプローチしていく。				
授業終了時の到達目標				
デバイスを問わず正確なフレーミングポジションから作業を開始出来る意識と技術と用い、目的に応じた機材選択の判断力を獲得する。また厳密なレベルでのレンズを通した画像の歪みを知りその理由を知る事も考察し、自身の作品制作にアプローチできる事を目的とする。				
教員の略歴				実務経験 有
・桑島秀樹 1964年大阪出身。日本写真専門学校（現：日本写真映像専門学校）卒業。「APA 日本広告写真家協会 APA2000」グランプリ、「エプソンイメージングコンテスト」審査委員長賞受賞				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	大型カメラのオペレーション		
2	フレーミング実習1	大型カメラを用いてのコピー用紙のフレーミング実習1		
3	フレーミング実習2	大型カメラを用いてのコピー用紙のフレーミング実習2		
4	課題合評	大型カメラを用いての実習を通しての制作・合評		
5	作品制作課題1	自身の身体を用いての作品表現		
6	作品制作課題2	他者の身体を用いての作品表現		
7	作品制作課題3	静物を用いての作品表現		
8	最終課題合評	合評		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		出席率 授業態度 課題	10.0% 30.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
暗室ワークⅠ・Ⅱ		フォトファイン学科	2024/通年	実習
授業時間	回数	単位数	必須・選択	担当教員
150分	26回	4単位	必須	山本幹夫・山本功巳
授業の概要				
撮影・フィルム現像・プリントまでの暗室ワークを身につける。				
授業終了時の到達目標				
モノクロの暗室作業の技術を用いて作品昇華できることが目的とする。				
教員の略歴			実務経験 有	
1993年写真スタジオ「スタジオマイク」設立。広告写真を中心に自身の作品制作も行なっている。 日本広告写真家協会会員。				
回	テーマ	内容		
1	ガイダンス	フィルム写真について		
2	撮影実習	フィルムカメラを用いての撮影実習		
3	フォトグラム	フォトグラム実習		
4	フィルム現像1	暗室にてフィルム現像		
5	コンタクトプリント1	コンタクトプリント実習/引き伸ばし機の使い方		
6	プリント実習1	キャビネットサイズのプリントワーク		
7	プリント合評	合評		
8	フィルム現像2	暗室にてフィルム現像		
9	コンタクトプリント2	コンタクトプリント実習		
10	プリント実習2	四つ切りサイズのプリントワーク		
11	サイアノプリント ガイダンス	サイアノプリントについて		
12	サイアノプリント実習1	プリント実習1		
13	サイアノプリント実習2	プリント実習2		
14	ブローニーカメラ	中判カメラの種類とその説明		
15	中判カメラ撮影実習	mamiyaRZ67を用いての撮影実習		
16	ブローニーフィルム現像	フィルム現像		
17	コンタクトプリント	コンタクトプリント作成		
18	プリント実習	ブローニーモノクロフィルムを用いてのプリント実習		
19	プリント合評	合評		
20	最終課題制作1	課題制作実習1		
21	最終課題制作2	課題制作実習2		
22	最終課題制作3	課題制作実習3		
23	最終課題制作4	課題制作実習4		
24	最終課題制作5	課題制作実習5		
25	最終課題制作6	課題制作実習6		
26	最終課題合評	合評		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		出席率 授業態度 課題 実習・実技評価	20.0% 20.0% 30.0% 30.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
写真考察 (課題制作)		フォトファイン学科	2024/通年	実習
授業時間	回数	単位数	必須・選択	担当教員
150分	10回	1単位	必須	田中・土屋・福島
授業の概要				
写真の多様な表現に親しみ、さらに深く理解をし、自己の理念を他者に共有できる為に必要な技術と知識を獲得する。				
授業終了時の到達目標				
自己の理念を写真を通じて他者に共有する事ができる。				
教員の略歴				実務経験 有
<p>田中一泉：写真業界とファッション業界での経験を元に作品を制作。2020 「箱に終う。」 solo exhibition in bouclettes(大阪) 2021 √Plant First Exhibition in 高瀬川・四季 Air(京都)2022 √Plant Second Exhibition in Fuji Film Imaging Plaza 出展(大阪) 2023 BEYOND THE AGES / PORTRAIT Sansiao Gallery(東京) 2025 Roots Bloom Gallery (大阪)</p> <p>土屋宏樹：都内レンタルスタジオにてスタジオマンとして数年勤務後、ファッションフォトグラファー福原佑二に師事しその後独立。現在もポートレートを中心に様々な被写体に対してスタジオ撮影並びにロケ撮影とジャンル問わず撮影を行なっている。</p> <p>福島耕平：大阪を拠点に写真作家とし活動。その傍、若年層を中心とした作家を集めたAtelier Ricken Backer設立、代表兼directorを務める。</p>				
回	テーマ	内容		
1	座学/制作テーマ：「質感の変化に伴う視覚的効果」	授業冒頭で解説した、毎回テーマについて、自身で限られた時間内で作品制作を行い発表する		
2	座学/制作テーマ：「過去と現在のコラージュ」	授業冒頭で解説した、毎回テーマについて、自身で限られた時間内で作品制作を行い発表する		
3	座学/制作テーマ：「柔と剛」	授業冒頭で解説した、毎回テーマについて、自身で限られた時間内で作品制作を行い発表する		
4	座学/制作テーマ：「必然の偶然」	授業冒頭で解説した、毎回テーマについて、自身で限られた時間内で作品制作を行い発表する		
5	座学/制作テーマ：「写真と絵画」	授業冒頭で解説した、毎回テーマについて、自身で限られた時間内で作品制作を行い発表する		
6	座学/制作テーマ：「親密な距離にある奇跡」	授業冒頭で解説した、毎回テーマについて、自身で限られた時間内で作品制作を行い発表する		
7	座学/制作テーマ：「2次元から3次元へ」	授業冒頭で解説した、毎回テーマについて、自身で限られた時間内で作品制作を行い発表する		
8	座学/制作テーマ：「色彩の視覚的実験」	授業冒頭で解説した、毎回テーマについて、自身で限られた時間内で作品制作を行い発表する		
9	座学/制作テーマ：「入力・変換・出力」	授業冒頭で解説した、毎回テーマについて、自身で限られた時間内で作品制作を行い発表する		
10	座学/制作テーマ：「最後の写真」	授業冒頭で解説した、毎回テーマについて、自身で限られた時間内で作品制作を行い発表する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席率	20.0%	
		授業態度	20.0%	
		課題	60.0%	

